

令和8年度施策評価調書

■ あしたひろがる わくわくプロジェクト

基本方針	DXやSDGsなど時代に対応した新たな取組を通して、誰もが夢や希望をもって、わくわく過ごせるまちを目指します。
------	---

【2. 若者が活躍するまちプロジェクト】

1 対象施策および施策目標 (P130)

施策名	若年層の市内定着を図るためのシビックプライドの醸成 (1501・1602)
施策目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地元で就職を考えている若者へのサポート体制を整えます。 ・本市への移住を検討している人が安心して移住できるよう支援します。 ・定住を促進するための総合的なサポートや住宅取得の優遇など、快適に住める環境づくりを進めます。 ・シティプロモーションの推進を通してシビックプライドを醸成します。
所管部課名	市長公室 (魅力発信課)

2 総合計画施策体系および成果指標 (P47, 49)

総合計画 施策体系	基本目標	01 みんなの力で磨くまちづくり
	基本施策	05 戦略的な定住・人口対策の推進 06 情報発信によるシティプロモーションの推進

	指 標 名	実績値(R3)	実績値(R7)	将来値(R9)
05	「移住促進住宅取得助成事業」 申請者数 (累計)	33件	238件	300件
	「おみたまくらし (移住定住サイト)」アク セス数	5,295件	10,113件	10,000件
	人口社会増減率	-0.98%	-0.04%	-0.18%
06	住みよさランキング	454位	668位	300位
	シティプロモーション活動における参画・参 加者の推奨・参加・感謝の修正NPS	-	76.0点	100.0点
	プレスリリースによる掲載率	28.0%	53.3%	40%

3 個別施策（P47, 49）

<p>1501 移住・定住の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小美玉市生まれの多くの若者が帰住（Uターン）するきっかけづくりとして、地元暮らしの素晴らしさをアピールするとともに、将来地元で就職を考えている若者へのサポート体制を整えます。 ・本市への移住を検討している人に本市を知る機会、体験する機会を設け、安心して移住できるよう支援します。 ・本市に住みたいと思っている若者を後押しするため、定住を促進するための総合的なサポートに努めるとともに、生活基盤づくりに取り組みます。 ・移住・定住促進のため、住宅取得における世代別の優遇や、快適に住める環境づくりを進めます。
<p>1602 小美玉市の存在感を高める 広報の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シビックプライドの醸成を図るため、本市のよさや魅力を発掘し、広報による効果的な情報発信を行います。 ・共通して使用できるデザインコンセプトを打ち出し、市内及び全国に向けて効果的に本市の魅力を発信します。 ・本市のよさや魅力をPRする様々な媒体を制作し、動画配信媒体や各種SNSなどのメディアを活用して本市の魅力を伝えます。

4 施策達成のための主要な事務事業(令和7年度)

【指標値】

事務事業名	指標名	単位		R6	R7	R8	R9
移住促進住宅取得補助金	補助金交付件数	件	計画	154	111	71	71
			実績	61	57	-	-
	移住定住者数	人	計画	200	200	200	200
			実績	190	191	-	-
地方就職学生支援事業	Uターン数	人	計画	0	43	10	10
			実績	0	0	-	-
奨学金返還支援事業	Uターン数	人	計画	0	20	10	10
			実績	0	7	-	-
広報活動事業	広報紙の発行により市の情報を発信	部	計画	15,100	15,100	14,000	14,000
			実績	15,100	14,000	-	-
	ウェブサイトの広報ページ（個別ページ）へのアクセス件数	件	計画	21,000	22,000	22,000	22,000
			実績	8,211	8,712	-	-

【評価】

(4点満点の数値)

事務事業名	妥当性		有効性		効率性
	①	②	③	④	⑤
	事業の必要性	市が実施する妥当性	計画達成への貢献度	活動量に見合う成果	コストの低減度
移住促進住宅取得補助金	4	4	4	4	2
地方就職学生支援事業	3	3	3	3	2
奨学金返還支援事業	4	4	4	2	2
広報活動事業	4	4	4	3	3

参考

【妥当性】① 4：高い、3：やや高い、2：やや低い、1：低い ② 4：妥当、3：概ね妥当、2：やや妥当、1：妥当でない
【有効性】③ 4：高い、3：やや高い、2：やや低い、1：低い ④ 4：ある、3：ほぼある、2：ややある、1：ない
【効率性】⑤ 4：大きくできる、3：ややできる、2：あまりできない、1：全くできない

5 施策の課題認識と解決の方策

施策の課題	解決の方策
学生向け支援策の地方就職学生支援事業における申請件数の低迷	市報・ホームページ等での周知の強化や市内事業所の協力による周知体制を整える。
効果的な市の魅力発信の方策の検討	SNSを利用した広告動画のPRを行うことにより、ターゲットをのぼった効果的な市の情報発信を行い、さらに移住サイトや観光情報へ誘導することで、市の魅力発信を行う。

6 施策所管部局長による評価

評価	評価の理由
A：取組を維持し、施策成果を維持	B これまで実施してきた事業は、一定の成果が見られ、指標値に近づいている事業もあることから、引き続き取組みを強化し、目標達成に向けた施策の推進を図っていく。
B：取組を強化し、施策成果を向上	
C：取組を見直し、施策成果を向上	
D：施策を見直す	

7 専門委員会の意見及び評価

評価	意見の内容
A：取組を維持し、施策成果を維持すべき	B ○移住促進という目標と、現状の市内向け広報活動との間に乖離あり。SNS活用の強化や不動産会社との連携等、市外・県外層に向けた戦略的な発信を強化すべき。 ○住みよさランキング等の指標の妥当性については検討が必要。 ○移住者が地域コミュニティに溶け込めるよう、地域おこし協力隊や地域住民との協力関係を構築するアプローチを検討してほしい。 ○農業、工業、観光等と連携し、就職先確保や遊休農地の活用を通じた、定着できる環境整備を進めてほしい。 ○若者の多くが市外に進学・就職している現状を前提に、シビックプライドを育むアプローチや、一度市外へ出た層が戻りたくなるような関係性構築が必要。
B：取組を強化し、施策成果を向上すべき	
C：取組を見直し、施策成果を向上すべき	
D：施策を見直すべき	

8 総合計画審議会の意見

評 価		意見の内容
A：取組を維持し、施策成果を維持すべき	B	<p>○専門委員会の評価では、目標未達の指標が多かったことから点数が低くなり、Cに近いBである。</p> <p>○補助金で人を呼ぶよりも地域に関わる住民を増やす施策へと強化してほしい。</p> <p>○施策を実施後すぐにUターンの成果が出るわけではなく、家庭環境や経済状況により、効果が出るまで時間を要するため、単年度で何件という数値は参考にはなるが客観的な評価が難しい。</p>
B：取組を強化し、施策成果を向上すべき		
C：取組を見直し、施策成果を向上すべき		
D：施策を見直すべき		

令和 8 年度 施策評価調書

■ あしたひろがる わくわくプロジェクト

基本方針	DXやSDGsなど時代に対応した新たな取組を通して、誰もが夢や希望をもって、わくわく過ごせるまちを目指します。
------	---

【4. 職員が変わる・職員の意識 向上プロジェクト】

1 対象施策および施策目標 (P131)

施策名	自治体DXに対応していくための人材育成・人材確保 (1302・1402・1405)
施策目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークを活用し、非常時においても行政サービスを提供できるデジタル環境の整備を推進します。 ・デジタル技術の導入により業務の効率化を図ります。 ・市町村アカデミーへの研修派遣や情報セキュリティに関する研修など、多様な機会を活用した人材育成・人材確保を図ります。 ・高度多様な市民ニーズに対応できる職員の能力・体質の強化を図ります。
所管部課名	総務部 (人事課、総務課)

2 総合計画施策体系および成果指標 (P42-45)

総合計画 施策体系	基本目標	01 みんなの力で磨くまちづくり
	基本施策	03 開かれた行政・多様な交流の推進 04 効率的な行財政の運営

	指 標 名	実績値(R3)	実績値(R7)	将来値(R9)
03	ホームページ閲覧回数	3,942,178回	3,094,848回	5,282,893回
	「小美玉市DX推進計画(実施計画)」計画期間の事業実施数	0事業	62事業	77事業
	DXに関する庁内研修の受講率	0%	96%	90%
04	「第4次小美玉市行財政改革大綱」計画期間の財政効果額	285,000千円	715,211千円 (R6実績値)	700,000千円
	「第4次定員適正化計画」期間の職員数	521人	505人	490人

3 個別施策（P42-45）

<p>1302 DXの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行政手続きのオンライン化を進め、市民がマイナンバーカードを用いてオンライン手続きが可能となる環境を整備するとともに、マイナポータルやいばらき電子申請・届出サービスなどにより来庁せずに行うことができることを目指します。 通信環境などにより手続きのオンライン化に対応することが困難な方などのために、手続きや窓口サービスなどのデジタル化を図ります。 DXを推進し、市民サービスの向上や業務の効率化を図るため、利用の機会などの格差の是正や行政区のデジタル化の推進、デジタル技術を扱う人材の確保・育成に努めます。
<p>1402 行政評価の推進と事務事業改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化を図るため、業務改革を徹底し、効率化が見込まれる業務からAI・RPAなどデジタル技術の導入を推進します。 テレワークを活用し、非常時においても適切に行政サービスを提供できる環境の整備を図ります。 コスト削減や行政運営の効率化を図るため、ガバメントクラウドを活用し、住民基本台帳業務や国民健康保険関連業務などの自治体情報システムの標準化・共通化を推進します。
<p>1405 定員管理と人事評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「小美玉市第4次定員適正化計画」に基づき、職員年齢構成の平準化や新たな人員抑制に資する職員数の全体管理を行います。また、社会情勢の変化に伴う高度多様な市民ニーズに対応し得る能力と体質の強化を積極的に図ります。 市町村アカデミー（市町村を担う人材育成のための中央研修機関）をはじめ、多様な研修派遣を継続的に図ります。

4 施策達成のための主要な事務事業（令和7年度）

【指標値】

事務事業名	指標名	単位		R6	R7	R8	R9
職員研修事業	DXに関する庁内研修	回	計画	1	1	1	1
			実績	0	1	-	-
	DXに関する庁内研修の受講率	%	計画	85	85	85	90
			実績	85	96	-	-
	市町村アカデミー受講研修	回	計画	5	5	3	5
			実績	5	5	-	-
市町村アカデミー派遣職員	人	計画	5	5	3	5	
		実績	5	5	-	-	
ICT利活用推進	AI・RPA導入業務数	業務	計画	27	31	35	39
			実績	28	34	-	-
	RPA導入による削減時間数（のべ）	時間	計画	2,500	3,000	4,000	5,000
			実績	2,439	3,320	-	-
オンライン申請の拡充	市民向けフォーム数	件	計画	500	600	700	800
			実績	549	734	-	-
	利用件数	件	計画	12,000	14,000	16,000	18,000
			実績	13,868	15,890	-	-

【評価】

(4点満点の数値)

事務事業名	妥当性		有効性		効率性
	①	②	③	④	⑤
	事業の必要性	市が実施する妥当性	計画達成への貢献度	活動量に見合う成果	コストの低減度
職員研修事業	4	4	3	3	2
ICT利活用推進	4	4	3	3	2
オンライン申請の拡充	4	4	3	3	2

参考

【妥当性】① 4：高い、3：やや高い、2：やや低い、1：低い ② 4：妥当、3：概ね妥当、2：やや妥当、1：妥当でない
【有効性】③ 4：高い、3：やや高い、2：やや低い、1：低い ④ 4：ある、3：ほぼある、2：ややある、1：ない
【効率性】⑤ 4：大きくできる、3：ややできる、2：あまりできない、1：全くできない

5 施策の課題認識と解決の方策

施策の課題	解決の方策
【人事課】DXに対応していくための専門人材の不足	独自の研修の充実に加えて、研修機関の活用等により人材育成を図る。
【総務課】業務改善は1年で完結しないが、人事異動によって、これまで行ってきた改善が引き継がれない。	BPR (Business Process Reengineering) を活用して業務を可視化し、改善の進捗状況を把握できる仕組みを構築する。
【総務課】DX推進には担当課や庁内の合意形成が重要であるが、理解や意識に差があり、推進に必要な迅速さが不足している。	まずは、小さな成功体験を積み重ねることで、DX推進に積極的に関わる意欲を高める。

6 施策所管部局長による評価

評価	理由
A：取組を維持し、施策成果を維持	B AI・RPA導入業務数や削減時間、オンライン申請フォーム数と利用件数がいずれも増加し、市民サービスの向上に貢献している。DX研修受講率も約96%に上昇し、職員意識の向上を進めている。DX推進計画は前倒し改訂され行革大綱と統合されるなど、組織体制も強化された。DXを推進するための職員スキル向上を目的とした取組強化の必要性による評価としている。
B：取組を強化し、施策成果を向上	
C：取組を見直し、施策成果を向上	
D：施策を見直す	

7 専門委員会の意見及び評価

評価	意見の内容
A：取組を維持し、施策成果を維持すべき	B ○取り組みは進んでいるが、デジタルに不慣れな高齢者や困難を抱える市民を取りこぼさない対応が課題。 ○組織内での取り組みを先行し効率化を実現することで、市民サービス向上へ還元してほしい。 ○業務のデジタル化を進める一方で、住民と直接向き合うことの重要性を忘れず、ハートの通った対応ができる職員の育成と意識改革を進めてほしい。 ○カスタマーハラスメント対策の制度を強化し、職員が安心して働ける環境を整えることで、組織としての持続的なパフォーマンス向上を図ってほしい。
B：取組を強化し、施策成果を向上すべき	
C：取組を見直し、施策成果を向上すべき	
D：施策を見直すべき	

8 総合計画審議会の意見

評 価		意見の内容
A：取組を維持し、施策成果を維持すべき	B	<p>○生成AIの活用には、業務効率化によって生まれた時間で人との対話やサービスを充実させたり、新たな業務に取り組めるというメリットがある。</p> <p>○生成AIを使う側が生成物の中身を理解したうえで活用するように徹底すべきであり、人の目によるチェックが必要である。</p>
B：取組を強化し、施策成果を向上すべき		
C：取組を見直し、施策成果を向上すべき		
D：施策を見直すべき		